



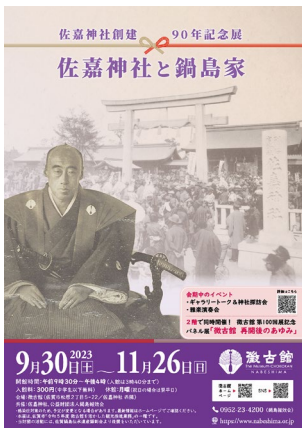
徴古館報 第43号 令和6年(2024)3月発行



佐嘉神社創建時の写真 昭和8年(1933)

# 令和5年度の展覧会

令和5年度は、4～9月まで建物の改修工事等のため休館し、9月30日より以下の展覧会を開催しました。



## 佐嘉神社創建90年記念展「佐嘉神社と鍋島家」(令和5年9月30日～11月26日)

幕末の佐賀藩主10代鍋島直正公と11代直大公を御祭神としてお祀りする佐嘉神社は、昭和8年(1933)の御創建から令和5年(2023)で90年の節目を迎えました。これを記念して本展では佐嘉神社との共催により、多くが初公開となる貴重な御神宝をはじめ古写真、図面など佐嘉神社と鍋島家に伝わる品々を通して、佐賀の人々とともに歩んだ佐嘉神社御創建までの道のりについてご紹介しました。

来館者からは「佐嘉神社の由来・歴史などが分かり勉強になった」「佐嘉神社創立や直正公銅像建立に関する決まり、名君は亡くなってから長い年月が経っても地元から愛されていることが改めて分かった」などのご感想をいただきました。

また、合同展示や各種イベント、記念誌『御鎮座九十年奉祝記念 佐嘉神社』の発行などに神社や関係機関と協働で取り組み、来る創建100年の大きな節目にむけて、佐嘉神社と地域のつながりを知っていただける展示となりました。



### ■合同展示の開催

徴古館のほか、佐賀県立佐賀城本丸歴史館と佐賀市との合同展示を開催しました。佐賀城本丸歴史館では「古写真に見る佐嘉神社」展(9月30日～11月26日)を開催。佐嘉神社創建当初の古写真や設計図を通じて、90年前の佐嘉神社の姿が紹介されました。佐賀市役所1階市民ホールでは「佐嘉神社創建90年懐古写真展—受け継がれる想い—」(10月6日～20日)を開催。6月に佐嘉神社で開催した写真展のパネルを展示し、創建当時の写真をはじめ、現代までの時代の変遷が紹介されました。

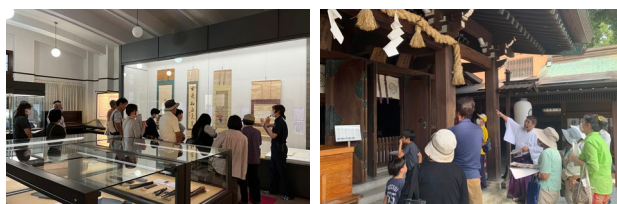


### ■イベント

#### 「ギャラリートーク&神社ミニ探訪会」(10月1日)

展覧会の関連イベントとして、当館学芸員による展示解説ののち、佐嘉神社に場所を移し、眞崎禰直のご案内により神社の鳥居や拝殿、神門など、創建当時の写真や図面と見比べながら探訪しました。

秋晴れの空の下、午前・午後の部あわせて30名の方々にご参加いただき、佐嘉神社の創建や御祭神・直正公に関する様々なエピソードに触れ、「わが町の神社」である佐嘉神社により親しんでいただけるイベントとなりました。



### ■イベント「雅楽演奏会」(10月21日)

展覧会関連イベントの第2弾として、徴古館の2階で雅楽演奏会を行いました。佐嘉神社の御祭神である10代鍋島直正公と11代直大公が深く嗜んだ雅楽について、佐嘉神社佐野宮司の解説とともに、同社の神職の方をはじめ6名による演奏を間近で体感できる会となりました。2回の公演で参加者は計57名となり、「永きにわたり受け継がれてきた伝統文化を堪能できた」「説明が分かりやすく、親しみを感じた」との感想をいただきました。



### ■鉄自在龍置物の展示

#### (令和5年12月26日～令和6年2月18日)

令和6年が辰年であることちなみ、佐嘉神社記念館にて当館所蔵の「鉄自在龍置物」(江戸時代)を展示しました。

46個のパーツからなる胴体や手足などが自由自在に動くように作られており、顎に「明珍」の銘があることから、甲冑師であった明珍一派による製作と考えられます。年始の佐嘉神社参拝者をはじめ、多くの方々にご覧いただきました。





## 徴古館企画展第100回記念パネル展「徴古館 再開後のあゆみ」(令和5年9月30日～11月26日)

昭和2年(1927)に開館した徴古館は、大戦の影響で約50年にわたり閉館し、平成10年に鍋島家伝来品の博物館として再開しました。再開以降、開催した展覧会の回数は「佐嘉神社と鍋島家」展で通算100回を迎えました。これを記念して、写真などで過去の展覧会を振り返るパネル展を徴古館2階で開催しました。全100回の展覧会をチラシや展示概要、展示風景写真のパネルで紹介するとともに、徴古館の収集資料を構成している3つの資料群(鍋島家資料・朝香宮家資料・収集資料)の中から代表的な資料を展示し、徴古館の収集資料について知っていただける機会になりました。これからも徴古館では展覧会やイベントなどを通して鍋島家や佐賀の歴史を紹介しながら、皆様と共に歩んでいきたいと考えています。



### 地域連携

## 佐賀城下ひなまつり



### 「鍋島家の雛祭り」展(令和6年2月10日～3月20日)

今回で24回目を迎える「佐賀城下ひなまつり」の一環として、徴古館では、侯爵鍋島家歴代夫人が愛でたおひなさまをご紹介します恒例の展覧会「鍋島家の雛祭り」を開催しました。往時の雛祭りにならった幅6mと5mの大雛壇を中心に、11代夫人栄子様の次郎左衛門雛や12代夫人楨子様の銀製雛道具、13代夫人紀久子様の有職雛など、約500点の雛人形・雛道具が並びました。

2階の特集展示では今回の佐賀城下ひなまつりのテーマ「たからもの」にちなみ、「鍋島侯爵のたからもの ちいさなクルマたち」と題して、13代直泰公が収集された多種多様なミニカー約150点を初公開しました。1階のおひなさまとあわせて、可愛くて格好良いミニチュアの世界をお楽しみいただきました。

また、今回は佐賀市・佐賀市観光協会と協働でメイン会場の1つである旧古賀家と佐賀城本丸歴史館の展示を行いました。旧古賀家では例年鍋島小紋柄をまとった雛人形を展示しており、今年はそれらの雛人形と一緒に鍋島小紋柄を織り込んだ鍋島緞通、マスキングテープや折紙等の文具類、ネクタイやカフス等の洋品とコラボレーションした製品を展示しました。佐賀城本丸歴史館では、子どもびなの宴10回目を記念して、審査員である今泉今右衛門氏ご協力のもと、「色絵磁器」人間国宝 十四代今泉今右衛門の宴を開催しました。



▲徴古館 2階展示室



▲旧古賀家



▲佐賀城本丸歴史館

### 地域連携

## 松原公園整備

徴古館は佐賀市の歴史公園「松原公園」内に位置しています。龍造寺・鍋島両家を祀る松原神社・佐嘉神社と徴古館がある松原一帯は、佐賀の歴史的な誇りを後世へ継承するためのエリアとして、また中心市街地と佐賀城公園の結節点に位置することから周辺との回遊を生み出す場所として、佐賀市をはじめ佐賀県や佐嘉神社とともに公園の第二期整備に向けた取り組みを進めています。

令和5年には、公園の民間事業者募集に先立ち幅広いアイデアや募集条件についての意向等を把握するためのサウンディング型市場調査が行われました。また各分野の委員による基本構想策定会議が発足し、整備イメージの具体化に向けた作業が始まりました。歴史文化に加え、憩いの緑や松原川の水辺を活かし、気軽に訪れたい場所となる整備が待たれます。

松原地区の隣は佐賀城下ひなまつりの会場が連なる長崎街道・柳町景観形成地区です。江戸時代以来の面影とその誇りを継承する武家地の松原と町人地の長崎街道周辺が一体となって現代に活かされ、公園というハード整備もひなまつりというソフト事業も一連のものとして、佐賀を訪れるすべての方にその価値を感じて楽しんでいただきたいと思います。

## 地域連携研究会

佐賀の地域史に携わる博物館や文化財関係機関等による共同の勉強会を令和4年度より継続しており、令和5年度は2回開催しました。

### ■刀と幕末佐賀の科学技術(令和5年6月12日)

佐賀県立博物館において、幕末に融合した佐賀藩在来の刀剣に関する知識・技術と西洋の科学技術について、前田達男氏(元 佐賀市世界遺産調査室長・産業遺産学会会員)と西村直真刀匠(西村直真鍛刀道場)に講演を行いました。また、科学技術史等の専門家である鈴木一義氏(元 国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長)をコーディネーターとして迎え、3名の先生方による座談会を行いました。従来の参加機関に加えて、佐賀県工業連合会への呼びかけも行い、様々な視点から意見交換ができた勉強会となりました。



### ■佐賀藩の洋書を開く—西洋科学技術導入の現場— (令和5年12月3日)

洋学史・洋書書誌学研究の第一人者である松田清先生(京都大学名誉教授、神戸外語大学日本研究所客員教授)をお招きし、勉強会と一般公開講演会を開催しました。

勉強会では鍋島家伝来の蘭書のうち、21冊の現物を実見しながら、洋書と訳書の対比のほか、書誌情報の見方や調査・目録作成の際の着眼点などについて詳しくご教示いただきました。講演会では、佐賀藩において西洋科学技術導入のために、いかなる洋書がどのように利用されたか、特徴ある具体例に即してご講演いただきました。



このほか、佐賀大学や近隣の博物館との共同研究「幕末明治期の佐賀藩海外渡航者の研究」や、國學院大学の科学研究費助成事業(基盤研究B)「戦前期東京における住宅開発と生活空間の変容—東京府渋谷区を事例に—」にも協力をしています。

## 研究助成

令和5年4月5日、徴古館において令和5年度分の研究助成の授与式を執り行いました。「論文コース」は若手研究者を中心すると3名の方、「探究活動コース」は佐賀市少年少女発明クラブ・佐賀市立東与賀中学校・西九州大学短期大学部が採択されました。

6月4日の研究報告会では令和4年度に助成を受けた3名と2グループによる報告があり、45名が聴講しました。

10月には令和3・4年度に助成を受けた5名と3グループによる研究・活動成果を掲載した研究報告書第11号を発行しました。

## 第28回

## プレイエル小音楽会

12月23日、鍋島紀久子様(13代直泰夫人)の婚礼調度のピアノ「プレイエル」の音色を楽しむ小音楽会を開催しました。演奏は北島千夏子さん(佐賀市)。プレイエルのピアノを愛用したショパンの演目を中心に、リストや坂本龍一氏作曲「戦場のメリークリスマス」など全11曲を演奏しながら、演奏者自身によるトークで曲や作曲者、曲にまつわる恩師との思い出などもお話いただきました。優しくも迫力のある素敵な音色が館内に響き渡り、2回の公演あわせて74名の方々にお楽しみいただきました。



## 新ミュージアムグッズ

## 佐賀鍋島 杏葉紋せんす

鍋島家伝来品のデザインを日用品に取り入れた、佐賀ならではのグッズとして「佐賀鍋島デザイン」シリーズの製作を開始し、シリーズ第一弾として8月16日に「佐賀鍋島 杏葉紋せんす」(限定200本)を発売しました。

本品は男女兼用、長さ22cmの京扇子で、爽やかなブルーとパールホワイトが清廉な印象を与えつつ、個性的なデザインが特徴です。扇面の柄は、当会の収蔵品のうち侯爵鍋島家の邸宅で用いられた洋食器(染付唐草杏葉紋散洋食器/香蘭社製)の柄をアレンジしたもので、鍋島家の家紋・杏葉紋と唐草文様を組み合わせた特別なデザインの扇子です。

(1本4,500円/税込)

今後も同シリーズで様々なグッズを展開する予定ですので、どうぞお楽しみに。



## 徴古館 新リーフレット

徴古館のリーフレットが新しくなりました。鍋島家や主な収蔵品の紹介はもちろん、建物や徴古館の沿革についてもご紹介しています。ご来館の際にはぜひお手に取ってみてください。



徴古館報 第43号 令和6年(2024)3月発行

公益財団法人 鍋島報効会

〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22

TEL・FAX 0952-23-4200

MAIL info@nabeshima.or.jp

URL <https://www.nabeshima.or.jp>